

銀の認定を取得した企業にアンケート調査したところ、取得のきっかけは「企業ブランド向上のため」が61.8%で最も多く（図1）、認定をもらうために苦労したことは「人員・予算の確保」が34.6%で、「苦労した点はない」が39.6%と最も多くなりました（図2）。取得のメリットとしては、経営陣や従業員のリテラシー向上や、食事・運動・喫煙習慣の改善があげられます（図3）。

図1 健康企業宣言・銀の認定の取得きっかけ

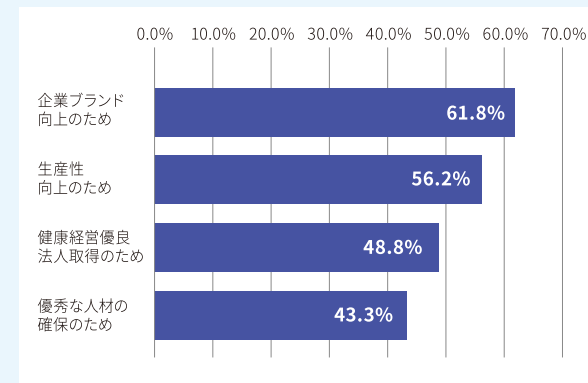


図2 健康企業宣言・銀の認定で苦労した点

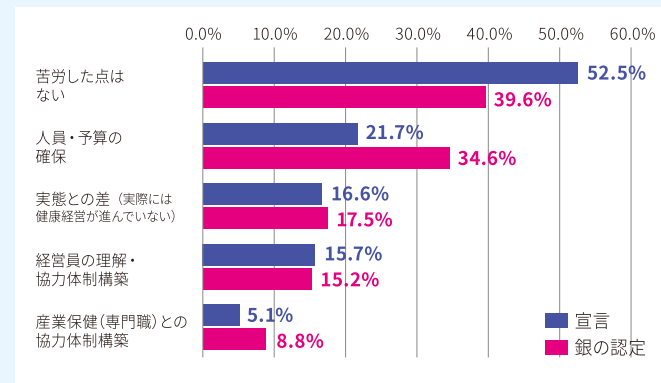
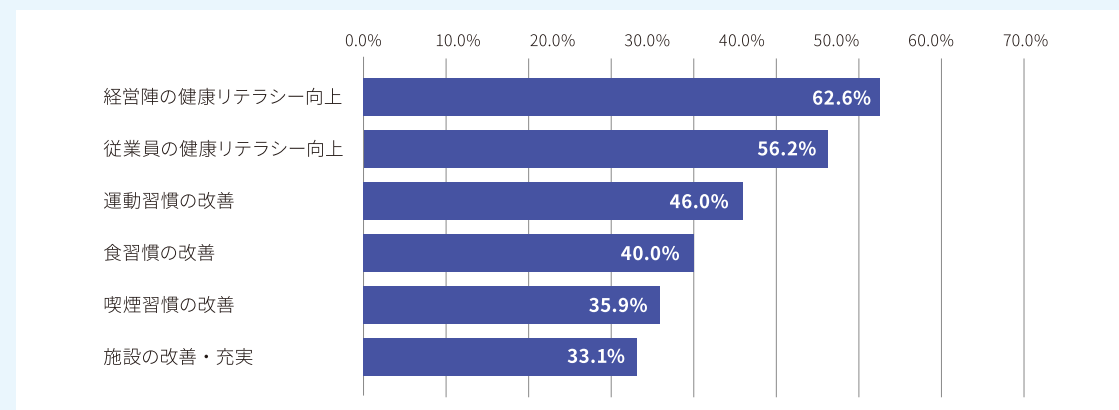


図3 銀の認定取得のメリット



好事例紹介

B社（建設業 従業員 男135名 女14名 拠点数3 産業医は嘱託）の場合

数年前、2名の社員が脳卒中で急死するという悲しい経験を経て「健康管理は自己責任」という意識から「会社の財産は社員。社員の健康管理も会社の責任」という意識に変わりました。

そこで、「健康企業宣言」をして社員の健康づくりに本腰を入れました。特定保健指導は本社で勤務時間中に実施することとし、実施率90%以上となりました。また、1か月に1回、現場所長と社員が健康状況を話し合うこととしました。

これらの取り組みが功を奏し、生活習慣病の低減、健康理由による傷病休暇の低減、糖尿病有所見者の数値改善が実現しました。

経営層のリテラシー向上が最も重要ですが、会社の経営資源だけでは限界があり、健康保険組合のサポートが大きな力になりました。

また「銀の認定」「金の認定」取得は、社員に会社の方針を浸透させるよいきっかけになりました。

従業員の健康は企業の誇り
活気ある職場は従業員の健康づくりから



「健康企業宣言」で 職場の健康づくりを！

従業員が健康でないと、企業も実力を発揮できません。従業員の健康管理は企業のリスク管理でもあります。企業で健康づくりをすることで、リスク低減が期待できます。まずは『健康企業宣言』にエントリーして職場の健康づくりを進め、健康優良企業として「銀の認定証」や「金の認定証」を手に入れましょう。

1 「健康企業宣言」って？

「健康企業宣言」とは、健康優良企業を目指して、企業全体で健康づくりに取り組むことを宣言することです。

職場の健康づくりに取り組む環境を整える「STEP1」では、必ず「100%健診受診」を宣言するほか、①健診結果活用、②健康づくり環境の整備、③食、④運動、⑤禁煙、⑥心の健康の6項目に取り組むことを宣言します。

もう一歩進んで、安全衛生にも取り組む「STEP2」では、①健診・重症化予防、②健康管理・安全衛生活動、③メンタルヘルス対策、④過重労働防止、⑤感染症予防対策、⑥健康経営の6項目に取り組むことを宣言します。



STEP2

職場の健康経営・本人・家族の健康づくりをさらに進め、安全衛生にも取り組みます。



STEP1

健康経営を行うために職場の健康づくりに取り組む環境を整えます。



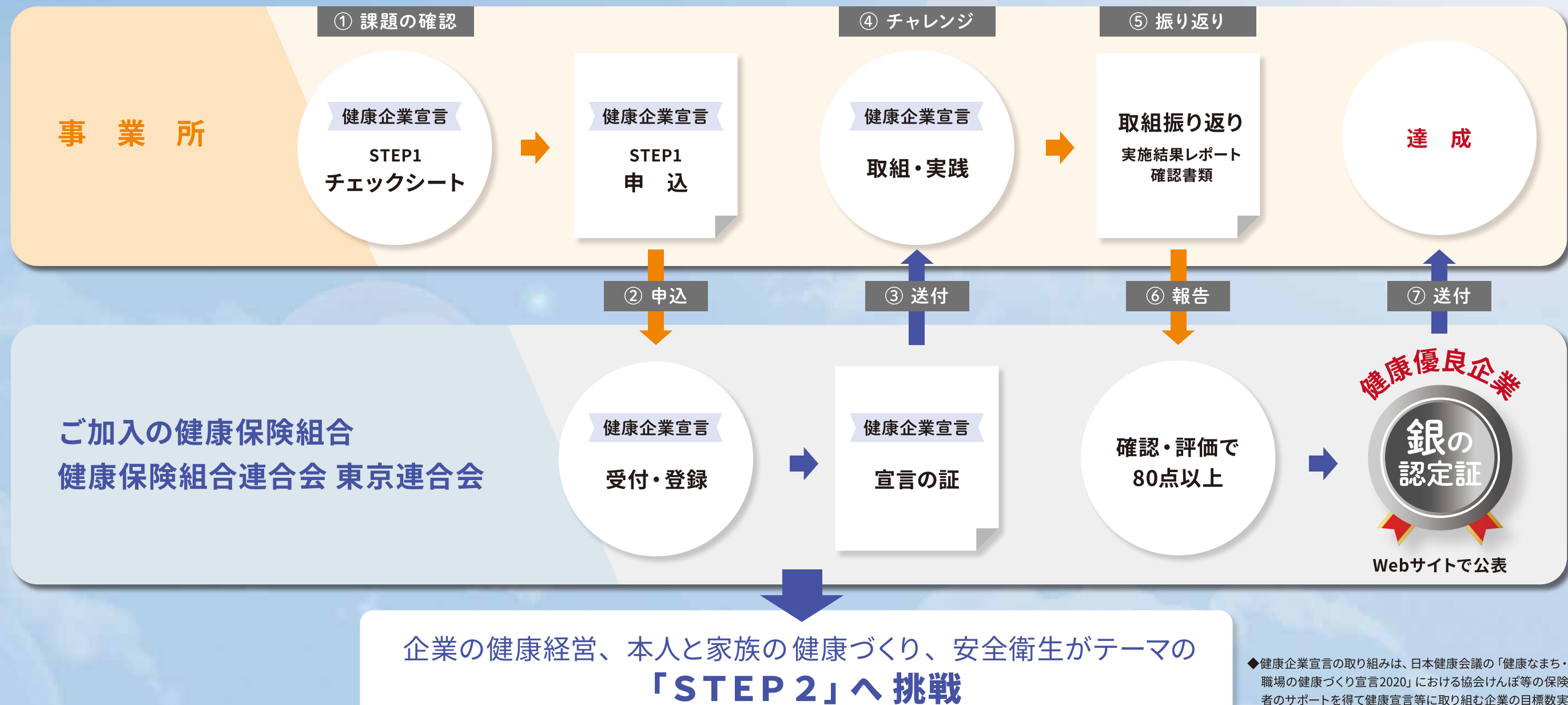
STEP1の実施結果レポートが80点以上になると「銀の認定証」を、STEP2では「金の認定証」をもらえます。



健康保険組合連合会 東京連合会

2 健康企業宣言から健康優良企業認定までの流れ

STEP1



◆健康企業宣言の取り組みは、日本健康会議の「健康なまち・職場の健康づくり宣言2020」における協会けんぽ等の保険者のサポートを得て健康宣言等に取り組む企業の目標数実現に向けた取り組みです。

3 健康保険組合等がサポートします

健康づくりの取り組みを、ご加入の健康保険組合がサポートいたします。

- 健康保険組合は、健康の増進のために保健事業を実施しており、各種事業における事業データを提供することができます。(加入組合によりサポート内容が異なります)。
- 活用できる外部リソースを紹介して繋がります。

健康宣言の取り組みに当たって、専門家による支援として東京商工会議所「健康経営アドバイザー制度」を利用することができます。

好事例紹介

A社(マーケティング業 従業員 男65名 女35名 拠点数1)の場合

「認定制度をとることは企業のアピールになる」ということで、外部に対して会社の考え方を可視化するために取り組みを始めました。

まずは「社員が健康でなければならない」という経営者の考えに基づいて健康経営を実施しています。経営陣・従業員双方のリテラシー向上策として、食習慣・運動習慣・睡眠の改善に取り組んだところ、企業ブランド価値が向上し、人材採用面で効果が出ました。「銀の認定」「金の認定」自体の認知度が高まると、効果はさらに大きくなると感じています。